授業科目名： 家庭経営学概論 （含家族関係学及び家庭経済学）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小橋　和子 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標
家庭を取り巻く、諸課題について討論し、社会の基本単位である個々の家庭からだけではなく社会的な視野からも検討していく。また、家庭科教員としての基礎的な知識を修得し、家庭経営に関して主体的な判断と行動がとれるようになる。

授業の概要
急速な少子高齢化，国際化の進展，情報化社会の到来，そして地球規模での男女平等の実現や環境問題など，今日我々を取り巻く問題や課題は複雑多岐なものとなっている。そこで，これらの諸課題について討論し，社会の基本単位である個々の家庭からだけではなく社会的な視野からも検討していく。この授業では担当教員の実務経験を活かして、現場理解を促す解説を行う。

授業計画
第１回：オリエンテーション（授業計画および教職課程ガイダンス）
第２回：「生活」を考える
第３回：生活時間と人の一生
第４回：長寿社会を生きる
第５回：現代の結婚
第６回：日本の子ども
第７回：生活と金銭管理
第８回：ファイナンシャルプランニング
第９回：カード社会の金銭管理
第１０回：消費者問題
第１１回：衣生活を考える
第１２回：食生活を考える
第１３回：住生活を考える
第１４回：地域・コミュニティ　ー新たなつながりの構築ー
第１５回：まとめ　ー世界の中の日本の生活ージェンダーを通してー
定期試験

テキスト
「新版　生活経営学」　赤星礼子・奥村美代子編（九州大学出版会）
高等学校教科書「家庭総合」（東京書籍）
中学校教科書「新しい技術・家庭（家庭分野）」（東京書籍）
「家庭総合学習ノート」（東京書籍）

参考書・参考資料等
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」
「持続可能な社会をつくる生活経営学」日本家政学会生活経営部会
「生活を作るライフスキル」内藤道子・仲間美砂子・金子佳代子
「生活経営論」藤原千賀・萩原なつ子・重川純子

学生に対する評価
定期テスト（60%）、レポート・プレゼンテーション　等（20%）
授業への取り組み・学習態度等（20%）、課題に対するフィードバックは成績評価をもってあてる。

授業科目名： 学校臨床心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安田　純 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

教育現場において直面する様々な課題に対して、分析、検討、解決できることを目標とする。

授業の概要

教育現場において起こりうる諸問題について、理解を深め、効果的な対応について捉える。子ども同士のかかわり、子どもと大人のかかわりがどのように変化していくのか、その中で必要な援助とはどのようなものであるのか、子どもの発達と発達障害の2点を中心として具体的な支援を探る。

授業計画

第１回：発達の基本
第２回：子どもの社会的関係の発達
第３回：子どもの認知的発達
第４回：対人コミュニケーション（子どもと子どものコミュニケーション）
第５回：対人コミュニケーション（教師と子どものコミュニケーション）
第６回：対人葛藤とその解消
第７回：集団としての学級
第８回：「気になる子」とは
第９回：発達障害への理解（自閉スペクトラム症）
第１０回：発達障害への理解（注意欠如多動症・学習障害）
第１１回：発達障害の評価（自閉スペクトラム症）
第１２回：発達障害の評価（注意欠如多動症・学習障害）
第１３回：発達障害への効果的な支援（TEACCHプログラム）
第１４回：発達障害への効果的な支援（ペアレントトレーニング）
第１５回：教育現場における心理学とは
定期試験

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

・新井 邦二郎・佐藤 純・濱口 佳和
　「教育心理学―学校での子どもの成長をめざして　（心理学の世界 基礎編）」培風館
・下山 晴彦「教育心理学〈2〉発達と臨床援助の心理学」東京大学出版会
・「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

学生に対する評価

定期試験（50%）、レポート（30%）、受講態度（20%）
課題に対するフィードバックは成績評価をもってあてる。

授業科目名： 児童臨床心理学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邉　淳一 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

心の構造について説明できる。幼児期・児童期・思春期前期の子どもの心理的発達と特徴を説明できる。代表的な心理検査について理解できる。

授業の概要

受講生が自ら調べプレゼンテーションし、ディスカッションすることによって、幼児期・児童期・思春期前期の子どもの心理的発達と特徴について学ぶ。この授業では、担当教員のスクールカウンセリングに関する実務経験を活用して実践的理解を深める。

授業計画

第１回：無意識へのアプローチ
第２回：心の構造　フロイトの理論
第３回：映像分析（２について）抑圧、精神分析について映像を通して理解する
第４回：集合的無意識　ユングの理論
第５回：元型
第６回：児童期から全思春期の心理発達
第７回：映像分析（４，５について）
第８回：映像分析（６について）第7回と第8回は連続して行う
第９回：児童臨床に関する実践的アプローチ（学会研修・理論編）
　　日本学校教育相談学会の内容に触れる。可能なら学会に参加する。
第１０回：心理検査・質問紙法　代表的な人格検査（質問紙法）を体験を通して理解する。
第１１回：心理検査・投影法　簡便な人格検査（投影法）を体験を通して理解する。
第１２回：アセスメントに用いる描画法 樹木画、人物画などを体験を通して理解する。
第１３回：コラージュ療法　心理療法としてのコラージュを体験を通して理解する。
第１４回：箱庭療法　箱庭療法を体験を通して理解する。
第１５回：総合的ディスカッション
定期試験

テキスト

河合隼雄　2017　『無意識の構造　改版』　中公新書　481

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

学生に対する評価

プレゼンテーション課題80％、普段の学習態度20％で評価する。
個別にフィードバックする。

授業科目名： カウンセリング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邉　淳一 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

カウンセリングの基礎的知識・技能について理解している。Active Listeningを実践できる。逐語記録を作成して省察できる。

授業の概要

受講生の講読により基礎理論を学び、演習によりカウンセリングの基礎的技能を習得する。演習では、担当教員の心理教育相談員としての実務経験から実践的に指導する。

授業計画

第２回：カウンセリングの人間観と前提理論
第３回：精神分析的カウンセリング
第４回：特性因子理論
第５回：来談者中心療法
第６回：認知行動療法
第７回：家族療法
第８回：その他のカウンセリング理論
第９回：基本的かかわり行動・技法
第１０回：Active Listening演習 基本的かかわり行動・技法を活用して演習を繰り返す。
第１１回：カウンセリング　ロールプレイ
第１２回：カウンセリング演習　逐語記録による省察
第１３回：動画と逐語記録による合同省察①
第１４回：動画と逐語記録による合同省察②
　第13回・14回は録画したカウンセリングの動画と逐語記録をもとに、各自の応答などを受講者全員で検討する。
第１５回：動画と逐語記録による合同省察③　全体のまとめ
定期試験

テキスト

平木典子　2004　『新版　カウンセリングの話』　朝日選書

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

学生に対する評価

作成した講読資料とプレゼンテーション40%、録画したカウンセリングの動画と逐語記録50%、普段の受講態度10%
個別にフィードバックする

授業科目名： 社会心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 閻　琳 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

社会行動の進化や基本的法則を理解し、社会的環境における人間の行動とその心理過程について説明できる。

授業の概要

人は集団の中で他者との関係を調整しながら生活している。その過程で，個人の行動は他者の存在によって影響を受けている。この講義では，人間の社会的な行動や現象の法則性について説明し，社会的環境における人間の行動とその心理過程についての理解を深める。

授業計画

第１回：社会心理学について

第２回：心の理論

第３回：社会行動の進化

第４回：利他的行動の進化

第５回：道徳性の進化

第６回：自己意識と自己呈示

第７回：自己評価

第８回：印象形成

第９回：帰属過程

第１０回：帰属のバイアス

第１１回：態度

第１２回：対人魅力

第１３回：援助行動と同調行動

第１４回：服従行動

第１５回：内在化

定期試験

テキスト

e-Learningシステム webclass（https://webclass.mimasaka.ac.jp/）にて資料を配信”

参考書・参考資料等

社会心理学（New Liberal Arts Selection）　有斐閣

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

学生に対する評価

毎回の課題提出（20%）　　論述式の試験（80%）

試験に対するフィードバックは成績評価をもって充てる

授業科目名： 家族心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 閻　琳 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

家族の基本的事項を理解し、家族の起源について説明でき家族の問題を心理学的視点で考察できる。

授業の概要

家族は人間社会の基本的単位であり，人間形成の基礎的条件を提供する最も重要な社会集団である。家族の起源から家族に関する基本的な諸事項を説明する。近代社会の成立とともに起こった核家族化の中で，親子・夫婦などの家族成員相互の関係について考察する。

授業計画

第１回：家族心理学について
第２回：家族形態の系統発生的検討
第３回：霊長類社会の進化
第４回：家族の起源
第５回：現代家族の問題
第６回：女性の生きがい
第７回：少子化の心理的要因
第８回：少子化の社会的背景
第９回：夫婦の役割
第１０回：女性の自立
第１１回：子どもの発達
第１２回：親子の問題
第１３回：親としての発達
第１４回：核家族の心理
第１５回：家族のこれから
定期試験

テキスト

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』

webclass（https://webclass.mimasaka.ac.jp/）にて資料を配信。

参考書・参考資料等

家族心理学への招待　ミネルヴァ書房　2006

学生に対する評価

毎回の課題提出（20%）　　論述式の試験（80%）

授業科目名： 衣生活論 （含被服学）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小橋　和子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・被服学（被服実習を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

現代生活において、目的に合った衣服を合理的に選択、購入、管理し、自己表現の手段としての衣服をどのように個性的、健康的に着装するのが望ましいかを考えることができる能力が身につく。

授業の概要

被服・衣服の起源・歴史・時代背景・流行の変遷をたどりながら、科学の進歩もふまえて、衣生活について今後の課題を探しながら学ぶ。講義のみだけでなく、染色の実技も含む。

授業計画

第１回：被服の起源
第２回：被服の変遷
第３回：現代生活と衣服
第４回：着装の心理
第５回：衣服と印象
第６回：衣服と流行
第７回：衣服と健康
第８回：衣服の素材1（被服材料学の基礎である各種素材の特徴について学ぶ。）
第９回：衣服の素材2（綿素材（ハンカチ）の染色を行い、その染色性について学ぶ。）
第１０回：衣服の管理1（被服生理学の基礎として、衣服の汚れと界面活性剤を中心に学ぶ。）
第１１回：衣服の管理2（被服生理学基礎2として、衣服の保管について学ぶ。）
第１２回：高齢者・障がい者の衣服
第１３回：衣生活の今日的課題
第１４回：被服と消費者
第１５回：まとめ

テキスト

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』
適宜、資料を配布する

参考書・参考資料等

衣生活の科学（健康的な衣の環境をめざして）アイ・ケイコーポレーション

学生に対する評価

レポート（80％）、受講態度・意欲（20％）

授業科目名： 食物学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 納庄 康晴、澤村 弘美 担当形態： オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

中学校家庭科教員に必要な、食と健康に関する専門的知識を科学的根拠に基づき体系的に修得する。食品の特質や栄養素に関する知識が深まり、栄養バランスの良い献立作成に生かせる専門知識と技能を身につけることができる。

授業の概要

食生活に関して、栄養学、食品学、調理学などの観点から幅広く理解するとともに、それらに係る技能を修得する。

授業計画

第１回：生活の中で食事が果たす役割（担当：納庄）

第２回：日本の食文化（担当：納庄）

第３回：現代の食生活の課題（担当：納庄）

第４回：用途に応じた食品の選択（生鮮食品と加工食品）（担当：納庄）

第５回：食品の栄養的な特質（動物性食品、植物性食品、その他の食品）（担当：納庄）

第６回：栄養素の種類と働き（１）炭水化物、脂質、たんぱく質（担当：納庄）

第７回：栄養素の種類と働き（２）ビタミン、ミネラル（担当：納庄）

第８回：水の働きとその他の成分（担当：納庄）

第９回：食生活の設計（栄養バランスとは）（担当：澤村）

第１０回：献立作成と調理計画（担当：納庄）

第１１回：食品や調理器具の安全と衛生（担当：納庄）

第１２回、第１３回：調理実習（１）日常食の調理（担当：納庄）

第１４回、第１５回：調理実習（２）地域の食材を用いた和食の調理（担当：納庄）

テキスト

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

参考書・参考資料等

「技術・家庭科（家庭分野）」文部科学省検定済教科書（東京書籍）

「中学校学習指導要領」（平成29年告示）

学生に対する評価

定期試験（80%）、受講態度（20%）により総合的に評価する

授業科目名： 住生活論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大土井　亮輔
			担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・住居学

授業のテーマ及び到達目標
理想の住環境の障壁となっている課題、特に防災・環境（地球温暖化）・高齢少子化の現状の学習を通じて、住生活環境の現状と将来の理想環境を整える手法を、理解し、住環境について広い知識の修得を到達目標とする。

授業の概要
理想の住環境とは何かを理解し、実現の為に「安全安心・省エネ・福祉」のテーマを取り上げ、講義の他に実在最新住宅等の校外学習を取入れ、社会生活の中での住環境の現状と最新の取組（SDGs含む）を学習し、個々の課題について、グループ討論形式の解決手法と方法を演習する。

授業計画
第1回目 住生活論　概論1（授業の目的と進め方の説明）
第2回目 住生活論　概論2　（日本及び世界の住まいの変遷）
第3回目 住宅環境の事例検証1（日本で進化した食生活文化）
第4回目 住空間の現況　防災（安全安心な住まい）
第5回目 住環境の現況　省エネ（環境・エコ住宅）主に現状と課題について
第6回目 住環境の現況　省エネ（環境・エコ住宅）主に住環境内での対応と今後の取り組みについて
第7回目 生活の中の「食と住」空間の関係
第8回目 これからの「食・住」空間の実際（校外学習）
第9回目 住空間の改善演習1（問題解決手法の演習）
第10回目 住空間の改善演習（問題提起）
第11回目 住空間の改善演習（グループによるデイスカッション形式）
第12回目 住空間の改善演習（各グループ課題起案）
第13回目 各グループ別　テーマの実演習作業
第14回目 各グループ別　テーマの改善提案、創造発表(プレゼンテーション)
第15回目 総評とまとめ（受講生からの質疑、評価を含む）
定期試験

テキスト
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　技術・家庭編』文部科学省

参考書・参考資料等
福祉のまちづくり条例（岡山県）、改正省エネルギー法（経済産業省）、建築基準法・同施行令・都市計画法（国土交通省）

学生に対する評価
レポート提出（30%）、課題テーマ発表の内容と取組み態度（40%）、受講態度（30%）とし総合評価する。

授業科目名： 保育学	教員の免許状取得のための 必修科目 必修科目（食物学科）	単位数： 2単位	担当教員名： 藪田　弘美 担当形態：　単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学		

授業のテーマ及び到達目標

① 子ども・子育てをめぐる現状、保育の意義と目的、保育に関する法令・制度を理解する。② 乳幼児の生活、乳幼児期の成長発達や学びに関する客観的・科学的理解を深める。③ 保育所保育の原則、保育の内容と方法の基本について中等教育の視座から説明できる。④ 保育を多角的観点から俯瞰し分析的に捉える力を育み、保育の在り方について自分の考えを述べることができる。

授業の概要

① 保育の意義と目的、保育と子ども理解、保育内容とは何か、保育の場で行われる子育て支援　② 保育における子どもの食と栄養、健康・安全　③ 保育者の専門性と資質向上　④ 保育思想と歴史的背景、保育に関わる法律と制度、保育の現状と課題等について解説する。また、子どもを取り巻く人間関係や制度・政策、環境、社会、文化の在り方に関心を深め、中等教育の視座から探求できるよう授業構成をする。

授業計画

第１回：日本の保育の変遷（保育思想とその歴史的背景、日本の保育所保育の展開）
第２回：子どもの福祉（児童福祉に関する法律、福祉に関する施設）
第３回：現代社会の乳幼児を取り巻く環境と、その課題
第４回：乳幼児の発育・発達①（発育、運動機能・感覚機能の発達）
第５回：乳幼児の発育・発達②（知的・言語・情緒の発達）
第６回：乳幼児の生活（基本的生活習慣、社会的生活習慣）
第７回：乳幼児の食事と栄養
第８回：小児保健（保育所における健康管理と衛生）
第９回：安全確保とリスクマネジメント（子どもに多い病気と事故、その対応）
第１０回：保育の方法①（環境を通して行う保育）
第１１回：保育の方法②（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について保育実践から学ぶ）
第１２回：多様な子ども理解と保育（貧困家庭、単親家庭、障害のある子ども）
第１３回：保育と子育て支援（保育の場で行われる子育て支援）
第１４回：学校や地域との連携の中で行う保育（連携の必要性、学校地域との連携、協働）
第１５回：保育の課題と展望（保育者の職業倫理・資質能力を各自発表）
定期試験

テキスト

『改訂　なぜからはじめる保育原理【第2版】』（2018）建帛社

参考書・参考資料等

『保育所保育指針解説』厚生労働省（2018）

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』、参考資料は適宜配布

学生に対する評価

定期試験 70%、毎回の授業のリフレクションペーパー 30%

授業科目名： 子ども家庭福祉	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 蜂谷　俊隆
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学

授業のテーマ及び到達目標

児童や家庭が抱えている福祉問題の状況と、解決に向けて実施されている支援・施策とその課題について、自らの考えを説明できる。また、多様化する子どもと家庭のニーズに対して、実施すべき支援について、自ら考えられるようになる。

授業の概要

現代の子どもや家庭・家族を取り巻く状況、児童家庭福祉の歴史や理念、基本的な考え方、実施体系・制度の知識及び、援助技術について解説する。また、演習を通して、求められる児童家庭福祉のあり方について受講者自らが考えていく。

授業計画

第１回：児童家庭福祉の考え方　理念と構造、援助の視点

第２回：子どもの権利（1）児童の権利条約

第３回：子どもの権利（2）子どもの権利を擁護する取り組み

第４回：児童家庭福祉を取り巻く状況

第５回：児童家庭福祉の歴史（1）海外における展開

第６回：児童家庭福祉の歴史（2）日本における展開

第７回：児童家庭福祉の法律及び、行政の仕組み

第８回：児童家庭福祉の機関と施設

第９回：児童家庭福祉に関連する社会資源と援助方法

第１０回：児童家庭福祉の実際（1）　社会的養護

第１１回：児童家庭福祉の実際（2）　保育サービス

第１２回：児童家庭福祉の実際（3）　子育て支援

第１３回：児童家庭福祉の実際（4）　児童虐待への対応

第１４回：児童家庭福祉の実際（5）　ひとり親家庭への支援

第１５回：児童家庭福祉の実際（6）　非行への対応と支援

テキスト

『（新・プリマーズ）児童家庭福祉』（ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

学生に対する評価

毎回の講義で実施する小テスト、レポート等で評価します(100%)。定期試験は行いません（再試験も実施しません）。

小テストの解答や、添削後のレポート・課題の返却は、WebClass上で行います。

授業科目名： 社会福祉	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 蜂谷　俊隆
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学

授業のテーマ及び到達目標

本講義終了時には、社会福祉の基本的な考え方や、実施体制について説明できるようになることを目標とする。

授業の概要

本講義では、社会福祉について、狭義の社会保障（所得保障）、対人援助サービス、援助技術を含む広い概念として捉える。そして、社会福祉の思想・理念、基本原理、社会福祉法制、社会福祉サービス体系、社会福祉援助対象と援助の視点について概説する。社会福祉援助の方法については、演習形式で実践する。また、Webサービスを使用して、確認テストやアンケートを実施する。

授業計画

第１回：社会福祉の基礎概念
第２回：福祉の歴史（欧米）　相互扶助、宗教的慈善／エリザベス救貧法と慈善事業
第３回：社会福祉の歴史（欧米）　　社会事業の成立から福祉国家の成立とそのゆらぎ
第４回：社会福祉の歴史（日本）　　古代から近世の救済活動／明治期の慈善事業
第５回：社会福祉の歴史（日本）　　社会事業の成立から福祉国家体制の成立とそのゆらぎ
第６回：社会福祉を取り巻く状況　　少子高齢化と家族の変化
第７回：社会保障と公的扶助
第８回：母子保健と子どもの健康
第９回：子ども家庭福祉
第１０回：障害児者福祉　　障害の概念と障害児者福祉の理念、支援体系
第１１回：社会福祉の援助と方法（1）社会福祉援助の視点（エコマップを用いた演習）
第１２回：社会福祉の援助と方法（2）相談援助の原則と面接技法
第１３回：社会福祉の援助と方法（3）グループワーク・コミュニティワーク
第１４回：社会福祉とソーシャルアクション、社会開発
第１５回：保育と福祉について
定期試験

テキスト

資料を配布します。

参考書・参考資料等

大久保秀子『新・社会福祉とは何か』（中央法規出版，2022）
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

学生に対する評価

毎回の講義で実施する小テスト・課題、レポート等で評価します（100%）。定期試験は実施しません。また、成績評価において不可となった学生を対象とした再試験は実施しません。なお、小テストの解答や、添削後のレポート・課題の返却は、WebClassとGoogleclassroomを使用して行います（ただし、原稿用紙やワークシート等を使用した課題は、次回の授業内に返却します）。

WebClass、GoogleClassroomを使用してフィードバックします。

授業科目名： 子ども家庭支援論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 蜂谷　俊隆 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学

授業のテーマ及び到達目標

現代の家族が直面する問題について理解し、子ども家庭支援の役割や機能、専門職として求められる援助技術について基本的な知識を身につける。家族やその構成員の暮らしにくさや日常生活におけるニーズについて客観的に理解し、子ども家庭支援の必要性と専門職の役割について、自らの考えを説明できるようになる。

授業の概要

講義と演習を通して、家庭とは何か、援助とは何か、また保育者に求められる援助とはなにか、資料や事例を通して具体的に理解する。また、WebClass、Googleclassroomを使用して、確認テストやアンケートを実施する。

授業計画

第１回：家族支援の対象、役割

第２回：子どもと家族、家庭の変化

第３回：保育士による家族支援の基本

第４回：子どもから見た生活

第５回：子育てに対する社会的支援

第６回：保育所における子ども家庭支援のあり方

第７回：社会資源と支援のネットワーク

第８回：保育者の専門性と援助の内容（1）　対人援助とは何か

第９回：保育者の専門性と援助の内容（2）　個人や家族への援助の技術

第１０回：保育者の専門性と援助の内容（3）集団への援助の技術

第１１回：保育者の専門性と援助の内容（4）社会資源の活用と行政機関との連絡・協力

第１２回：保育者の専門性と援助の内容（5）保育者に求められる基本的態度

第１３回：子ども家庭支援や地域の子育て支援の実際（1）　子どもの生活をめぐる諸制度

第１４回：子ども家庭支援や地域の子育て支援の実際（2）　生活と制度（実施の具体化）

第１５回：子ども家庭支援や地域の子育て支援の課題

テキスト

『ひと目でわかる　保育者のための子ども家庭福祉データブック2023』（中央法規）
※子ども家庭福祉（2年次）等と共用

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

学生に対する評価

毎回の講義で実施する小テスト、レポート課題等で評価します（100%）。定期試験は行いません（再試験も実施しません）。
小テストの解答や添削後のレポート・課題の返却は、WebClassとGoogleclassroomを使用して行います。

授業科目名： 乳児保育Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 市川　智之 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学

授業のテーマ及び到達目標

1．乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。
2．3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた保育内容について理解する。
3．健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊び、保育環境について理解することができる。

授業の概要

乳児保育の基礎を学ぶ。乳児保育の意義、乳児の発達と発達に応じた保育内容を保育所保育指針等をもとに説明する。また担当教員の実務経験を踏まえた実践事例を紹介し、グループワーク、ディスカッションを通して理解を深める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（乳児を取り巻く子育て文化の変遷）

第２回：乳児保育の変遷

第３回：乳児と集団での生活

第４回：乳児の発達と保育①　　0歳児前半の発達と保育について学ぶ。

第５回：乳児の発達と保育②　　0歳児後半の発達と保育について学ぶ。

第６回：乳児の発達と保育③　　1歳児前半の発達と保育について学ぶ。

第７回：乳児の発達と保育④　　1歳児後半の発達と保育について学ぶ。

第８回：乳児の発達と保育⑤　　2歳児の発達と保育について学ぶ。

第９回：乳児の発達と保育⑥　　3・4・5歳児の保育とのつながりについて学ぶ。

第１０回：乳児の遊びと意義

第１１回：乳児保育における安全と保健

第１２回：乳児保育における保護者・職員・地域との連携

第１３回：乳児保育における子育て支援

第１４回：乳児保育の計画・記録・評価とその意義

第１５回：まとめ

テキスト

はじめて学ぶ　乳児保育　（同文書院，2018）
保育所保育指針解説書（厚生労働省編，フレーベル館，2018）

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

学生に対する評価

テスト（60%）　ワークシート（30%）　受講態度（10%）
ワークシートの考察・質問について、授業ごとに返答を行う。

授業科目名： 乳児保育Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 薮田　弘美 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学

授業のテーマ及び到達目標

1. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。
2. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解することができる。
3. 多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解することができる。
4. 乳児保育の方法（着替え・おむつ交換・調乳・離乳食作り・玩具作り）を実践的に学ぶ。

授業の概要

乳児保育の指導計画、記録及び評価について概説する。。保育所訪問を行い、参与観察をし実践的に学び、振り返りはグループディスカッションを行う。助産師をゲストティーチャーとし、実際の保護者支援について理解する。また、薬剤師をゲストティーチャーとし乳児の投薬方法を理解する。

授業計画

第１回：観察実習前オリエンテーション 観察実習に行くにあたっての姿勢・観察の視点を学ぶ。
第２回：観察実習（保育所）子どもの姿・保育者の関わり方・物的空間的環境を実践を通して学ぶ。
第３回：保育所での乳児の生活を知る　観察実習をグループワークを通して振り返りをする。
第４回：乳児との触れ合いの基本を学ぶ 抱っこの仕方、おんぶの仕方を実践的に学ぶ。
第５回：乳児の衣服の基礎知識を身に着ける　衣服の特徴と扱い方を学ぶ。
　　着替えの配慮ポイントを学ぶ。おむつ交換の知識を身に着ける。″
第６回：沐浴・清拭の方法を身に着ける 沐浴演習を実施する。
第７回：乳児の玩具製作発達を意識した玩具創りをする。
第８回：手作り玩具の発表　　グループごとに発表し学びを深める。
第９回：保育環境の健康管理について学ぶ。ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ：小川壮寛（オガワ薬局 管理薬剤師）
保育現場での乳児の投薬方法、薬の種類について専門的な知識を学ぶ。″
第１０回：調乳・授乳の方法を身に着ける　調乳・授乳の演習を実施。
第１１回：離乳食の基礎知識を学ぶ　離乳に向けた食事の勧め方を知る。
第１２回：離乳食づくり グループで離乳食づくりの演習を実施。
第１３回：保護者支援　乳児の保護者との関わり方を学ぶ
第１４回：乳児保育における安全管理を学ぶ。　ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ：津山市中央消防署（消防士）
乳児を心肺蘇生法、事件・事故から守る方法を知る。
第１５回：乳児保育における今後の課題 乳児保育の現状を知り、課題をグループでKJ法でまとめる。

テキスト

保育所保育指針解説書（厚生労働省編，フレーベル館，2018）

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

学生に対する評価

リフレクションペーパー（20%）　課題・レポート（60%）　受講態度（20%）
″受講態度のフィードバックは授業終了後，Webクラスの学習カルテであてる。
リフレクションペーパー、課題・レポートに対するフィードバックは成績評価であてる。
″

授業科目名： 家庭科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松原　洋子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標
小学校・中学校の家庭科を担当するために必要な基礎知識（家庭科の歴史、教科目標、内容、意義、評価等）について学び、児童・生徒の発達段階や生活状況、社会の変化の動向を考慮した教育法や題材の選び方を検討し、家庭科についての理解を深めることを目標とする。

授業の概要
今日の社会情勢，生活の実態や児童・生徒の現状および教育政策の動向をふまえ，家庭科教育の問題点の分析・考察を通じて，これからの家庭科教育のあり方や現代的課題について学ぶ。また、情報機器を効果的に活用できる方法を身に付け、授業に活かす。

授業計画
第1回　ガイダンス
　家庭科の意義と家庭科観の変遷
第2回　家庭科の歴史と意義
　家庭科の背景となる関連諸学問や領域
第3回　学習指導要領
　学習指導要領における家庭科の教育目標と内容
第4回　カリキュラムマネジメント
　学習指導案と年間指導案の作成のあり方
第5回　授業評価の意味と方法
　授業評価の方法とその活用について
第6回　授業研究Ⅰ：家族・家庭生活
　家族・家庭生活領域に関する内容の基礎と視点
第7回　授業研究Ⅱ：食生活
　①現代の食生活の課題②小・中学校で取り入れるべき内容
第8回　授業研究Ⅲ：衣生活
　①現状と課題②教材の具体的事例
第9回　実験・実習を用いた授業Ⅰ
　①調理実習室の管理②材料の調理
第10回　実験・実習を用いた授業Ⅱ
　①被服実習室の管理②基礎縫い
第11回　授業研究Ⅳ：住生活
　住生活領域に関する内容の基礎と視点
第12回　授業研究Ⅵ：消費生活・環境
　消費生活・環境領域に関する内容の基礎と視点
第13回　家庭科の指導方法
　教材・教具、ワークシートの作成の仕方と作成
第14回　学習指導案の作成
　学習指導案の作成及びその検討
第15回　まとめ

テキスト
「家庭5.6年」文部科学省検定済み教科書（東京書籍）
　実践的指導力を付ける家庭科教育法：多々納道子・伊藤圭子（大学教育出版）

参考書・参考資料等
『小学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省
『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編』文部科学省
『中学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　技術・家庭編』文部科学省

学生に対する評価
　試験（実技テストを含む）80%　受講態度20%により総合的に判断する

授業科目名： 家庭科教育法研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：松原 洋子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標
家庭科の目標・内容を理解したことをふまえ、科学的・思考力を高める 実践的な指導力つけることを目標とする。

授業の概要
家庭科における現代的課題について理解した上で，実験・実習を通して専門的な知識や技能の向上を図るとともに効果的な指導法（情報機器及び教材の活用を含む）を学ぶ。
学習指導案の作成および模擬授業を行い、意見交換等を通して授業実践力を身につける。

授業計画
第１回：オリエンテーション
　学習指導要領における目標及び授業内容
第２回：食生活領域Ⅰ（**小学校領域**）
　調理技術の習得および授業実践
第３回：食生活領域Ⅱ（**中学校領域**）
　調理技術の習得および授業実践
第４回：衣生活領域Ⅰ
　被服実習の授業運営とICTを活用して安全に配慮した指導について
第５回：衣生活領域Ⅱ（**小学校領域**）
　被服技術の習得および授業実践
第６回：教材研究・学習指導案の作成Ⅰ　**A家族・家庭生活領域（小学校領域）**
第７回：模擬授業Ⅰ　**A家族・家庭生活領域（小学校領域）**
第８回：教材研究・学習指導案の作成Ⅱ　**B衣食住の生活（小学校領域）**
第９回：模擬授業Ⅱ　**B衣食住の生活（小学校領域）**
第10回：教材研究・学習指導案の作成Ⅲ　**A家族・家庭生活領域（中学校領域）**
第11回：模擬授業Ⅲ　**A家族・家庭生活領域（中学校領域）**
第12回：教材研究・学習指導案の作成Ⅳ　**B衣食住の生活（中学校領域）**
第13回：模擬授業Ⅳ　**B衣食住の生活（中学校領域）**
第14回：教材研究・学習指導案の作成Ⅴ　Ｃ消費生活・環境（小・中学校領域）
第15回　模擬授業Ⅴ　Ｃ消費生活・環境（小・中学校領域）

テキスト
『家庭（5,6年）』文部科学省検定済み教科書（東京書籍）
『小学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省
『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編』文部科学省
『中学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　技術・家庭編』文部科学省

参考書・参考資料等
実践的指導力を付ける家庭科教育法：多々納道子・伊藤圭子（大学教育出版）

学生に対する評価
試験（実技を含む）・・50%、提出課題・プレゼンテーション・・30%、受講態度・・20%を総合的に判断する。

授業科目名： 家庭科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：小橋　和子 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標
基礎的な知識や理論に基づき，生活を豊かにするための教材研究や，授業設計ができる。

授業の概要
今日の教育課程における家庭科教育の意義やあり方について検討するとともに，家庭科各領域の基礎的・基本的な内容を理解し，習得する。また、情報機器及び教材の活用方法を身につける。この授業では担当教員の実務経験を活かして、現場理解を促す解説を行う。

授業計画
第１回：ガイダンス　「家庭科教育法Ⅰ」の授業計画、授業の進め方について
第２回：家庭科をなぜ学ぶのか　授業研究1「家庭科をなぜ学ぶのか」
　①家庭科を学ぶにあたって ②現代社会における家庭科教育
第３回：家庭科のあゆみⅠ
　①家事・裁縫科の時代　②家庭科の誕生　③社会の変化と家庭科のあゆみ″
第４回：家庭科のあゆみⅡ　授業研究2「なぜ家庭科を学ぶのか」
第５回：児童・生徒の発達を踏まえた家庭科の内容Ⅰ
　①生活者としての子どもの発達と課題
　②家庭科で育む能力・資質　③小・中・高等学校の学習内容と系統性
第６回：児童・生徒の発達を踏まえた家庭科の内容Ⅱ学習指導案
　授業研究3「家庭科で何を学ぶのか」
第７回：家庭科の目標や評価をどう設定するのかⅠ
　①家庭科における評価　②教科および分野の目標とも公表に準拠した評価
　③家庭科の授業実践と評価　④新たな評価方法と家庭科″
第８回：家庭科の目標や評価をどう設定するのかⅡ　授業研究4「家庭科の評価方法」
第９回：家庭科の授業をどう組み立てるのかⅠ
　①授業のストーリーづくり　②教材研究　③授業観察の視点　④模擬従業″
第１０回：家庭科の授業をどう組み立てるのかⅡ　授業研究5「家庭科の授業計画」
第１１回：家庭科の特性を生かしたアクティブ・ラーニングⅠ
　①家庭科の学びの構造　②アクティブ・ラーニングの視点からみた教員の指導環境
　③学習動機と学習方法　④ICT活用の授業例″
第１２回：家庭科の特性を生かしたアクティブ・ラーニング
　授業研究6「家庭科の学習の取り組み方」
第１３回：ユニバーサルデザインによる家庭科の授業Ⅰ
　①家庭科におけるインクルーシブ教育　②ユニバーサルデザインの授業の実際
第１４回：ユニバーサルデザインによる家庭科の授業Ⅱ授業研究7「家庭科の授業の受け方」
第１５回：家庭科の学習環境をどのように整備するかⅠ
　①子どもの「つまずき」から見る学習環境　②家庭科授業における学習環境
　③他教科や総合的な学習の時間等とのかかわり　④家庭・地域との連携
定期試験

テキスト
「家庭科教育法」多々納道子著（大学教育出版）
「高等学校学習指導要領解説　家庭編」（文部科学省）
高等学校教科書「家庭総合」（東京書籍）「家庭総合学習ノート」（東京書籍）

参考書・参考資料等
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」

学生に対する評価
定期テスト・・・60％
教科の専門性＝筆記試験および模擬授業の実践（教材研究）・・・20％
教職に対する意欲・態度＝提出物の状況，学習態度・・・20％
課題、試験に対するフィードバックは成績評価をもってあてる。

授業科目名： 家庭科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：小橋　和子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標
問題解決的な視点から学習指導の効果をモニタリングできる授業実践能力を身につける。

授業の概要
今日の教育課程における家庭科教育の意義やあり方について検討し，現代的課題について理解した上で，専門的な知識や技能の向上を図るとともに、ICT教材の活用を含む効果的な指導法を学ぶ。この授業では担当教員の実務経験を活かして、現場理解を促す解説を行う。

授業計画
第１回：ガイダンス、模擬授業について
第２回：模擬授業の実践　　中学校「家族・家庭生活」①
第３回：模擬授業の実践　　中学校「家族・家庭生活」②
第４回：模擬授業の実践　　高等学校「人の一生と家族・家庭及び福祉」①
第５回：模擬授業の実践　　高等学校「人の一生と家族・家庭及び福祉」②
第６回：模擬授業の実践　　中学校「食の生活」①
第７回：模擬授業の実践　　中学校「食の生活」②
第８回：実験・実習の指導法　調理実習①
第９回：実験・実習の指導法　調理実習②
第１０回：模擬授業の実践　　高等学校「食の生活の自立と設計」①
第１１回：模擬授業の実践　　高等学校「食の生活の自立と設計」②
第１２回：実験・実習の指導法　　調理実験①
第１３回：実験・実習の指導法　　調理実験②
第１４回：模擬授業の実践　　中学校「衣の生活」①
第１５回：模擬授業の実践　　中学校「衣の生活」②
定期試験

テキスト
「家庭科教育法」多々納道子著（大学教育出版）
「高等学校学習指導要領解説　家庭編」（文部科学省）
高等学校教科書「家庭総合」（東京書籍）
「家庭総合学習ノート」（東京書籍）

参考書・参考資料等
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」
中学校教科書「技術・家庭　家庭分野」（開隆堂）

学生に対する評価
教科の専門性＝筆記試験および模擬授業の実践（教材研究）・・・80％
教職に対する意欲・態度＝提出物の状況，学習態度・・・20％
試験・課題に対するフィードバックは成績評価をもってあてる。

授業科目名： 学校支援活動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 甲田　敦三 担当形態： 単独

科　目	大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業のテーマ及び到達目標

教育現場への積極的参加により専門的職業人としての実践力を培う。

中学校の教育現場での体験を通して、生徒の発達への理解を深め、教諭の職務や心構えについて考察できる。

授業の概要

津山市教育委員会と連携協力しながら学校支援活動を行える中学校を選定する。派遣する学校との協議の後、学生は体験先の中学校を訪れ、学習活動の補助、別室登校生徒の支援、放課後学習指導の補助、部活動の補助などに携わる。

授業計画

津山市教育委員会との連携協力事業である学校支援活動事前指導時に、市教委職員より活動のねらい、意義、注意点などについて講話を受ける。

その後、津山市教育委員会による学校支援活動受け入れ校の確定を経て、学生は派遣先中学校の担当教員と協議し、活動する曜日、時間等を調整する。その上で学生は、体験先の中学校を訪れ、学習活動の補助、別室登校生徒の支援、放課後学習活動の補助、部活動の補助などに携わる。

学生には30時間以上の活動を課す。

大学教員は、定期的に活動校に電話連絡や、指導の為の活動校への訪問、活動に対する個別指導などを行う。活動内容は、各自ファイルに記録し、協力校の教員からそのつど評価をもらうようにする。

テキスト

必要に応じてプリント等を配布する。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領(平成29年告示)、生徒指導提要（令和4年12月　文部科学省）

学生に対する評価

出勤簿、活動日数、活動内容、活動先の学校教員等からの評価等で総合的に判断する。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 俟野　英二 担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法

授業のテーマ及び到達目標

保育者及び教員の育成を目的とした教育課程の一環として、異なる価値観、文化、背景及び相互関係を知り、深い認識を持つこと、高い倫理観と責任感を以て他者と協力して仕事を進める意欲・態度を養い、また、体系的な思考方法を学ぶ。さらに、多面的に分析し、自らの見解を形成する能力を身につけることを目標とする。

授業の概要

本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権を学ぶことを通じて、異なる価値観、文化、背景及び相互関係を知り、深い認識を持ち、他者の人権を尊重する態度を修得する。

授業計画

第1回：ガイダンス、憲法とは何か
第2回：国家機関としての天皇制
第3回：憲法が目指す平和を守る仕組み１：非武装平和主義の採用の背景とその後
第4回：憲法が目指す平和を守る仕組み２：近年の安全保障をめぐる状況
第5回：国民主権を実現する仕組み１：政治と国民、国会議員
第6回：国民主権を実現する仕組み２：選挙、選挙制度、政党
第7回：人権を守るための組織１：国会、内閣
第8回：人権を守るための組織２：地方自治、裁判所
第9回：良心をもつ自由、貫く権利、中間試験
第10回：表現の自由と書かれない権利
第11回：知る権利とマスメディアの自由、グループワーク１
第12回：営業の自由と消費者の権利、グループワーク２
第13回：子どもの権利と学校における生徒の人権、グループワーク３
第14回：働く人の権利、グループワーク４
第15回：グループワーク５、まとめ
定期試験

テキスト

中富公一編著『憲法のちから：身近な問題を通して考える憲法の役割』（法律文化社、2021年）

参考書・参考資料等

右崎正博・浦田一郎編『基本判例1　憲法［第4版］』（法学書院、2014年）

学生に対する評価

授業中各章ごとに実施する小テスト（20%）、グループワーク（20%）、中間試験（20%）、期末試験（40%）
なお、小テストは各回の得点に応じて付与するものとし、グループワークは課題に対する興味関心や積極的な態度を基礎とする。

授業科目名： スポーツ健康講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 木谷　晋平 担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育

授業のテーマ及び到達目標
スポーツ・健康に関する正しい知識を身につけ、日常生活に活かすことを目標とする。

授業の概要
スポーツ・健康に関する基本知識を学ぶ。
理論を学ぶと同時に実践も行い、より理解を深める。

授業計画

第1回：オリエンテーション、身体コミュニケーション
第2回：基本的生活習慣と健康１：運動、栄養・食事、睡眠、飲酒等
第3回：基本的生活習慣と健康２：喫煙、肥満、やせ等
第4回：運動スポーツの準備
第5回：運動スポーツの理論
第6回：運動スポーツの実践
第7回：スポーツの広がり
第8回：現代社会とスポーツ

定期試験

テキスト
適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等
「心と体の健康・スポーツ」　茨城大学心と体の健康研究会　大修館書店　2019

学生に対する評価
受講態度（40%）、筆記試験（60%）で評価する。

授業科目名： スポーツ健康実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 木谷　晋平 担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育

授業のテーマ及び到達目標
スポーツを通じた健康づくりや仲間づくりを目標とする。

授業の概要
様々な運動やスポーツを実践し、多様な運動感覚を体感すると共に、種目毎にチームメンバーを変え、様々な仲間と関わり合えるようにする。

授業計画

第1回：オリエンテーション　アイスブレイクゲーム
第2回：バドミントンⅠ　チーム分け、ルール説明、ゲーム
第3回：バドミントンⅡ　サーブ、スマッシュ練習、ゲーム
第4回：バドミントンⅢ　ゲーム
第5回：ピックルボールⅠ　チーム分け、ルール説明、ゲーム
第6回：ピックルボールⅡ　ルール説明、ゲーム
第7回：ピックルボールⅢ　ゲーム
第8回：ピックルボールⅣ　ゲーム
第9回：バレーボールⅠ　チーム分け、ルール説明、パス練習、ゲーム
第10回：バレーボールⅡ　レシーブ練習、ゲーム
第11回：バレーボールⅡ　サーブ練習、ゲーム
第12回：バレーボールⅢ　スパイク練習、ゲーム
第13回：ピックルボールⅣ
第14回～第18回：ピックルボール大会

集中講義（5時間）
スキー・スノーボード
開講式、板の付け方、転び方、リフトの乗り方、止まり方、ターン、自由滑走、閉講式

テキスト
適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等
「心と体の健康・スポーツ」　茨城大学心と体の健康研究会　大修館書店　2019

学生に対する評価
受講態度（80%）、実技点（20%）で評価する。

授業科目名： 英語Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大谷　ショーン 担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

On completion of this course the students' will have a better understanding of the importance of English with regard to globalization and will be able to confidently use English for everyday communication.（グローバル化に関する英語の重要性をよりよく理解し、日常のコミュニケーションに自信を持って英語を使用できるようになることを目指します。）

授業の概要

The aim of this course is to give students the opportunity to work on all four skills of reading, writing, listening, and speaking. Topics studied will reflect a practical use of the English language with a main emphasis on communication.（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの英語の4つのスキルすべてに取り組みます。コミュニケーションに重点を置いた英語の実践的な使用に取り組みます。）

授業計画

第1回：Course outline & Introductions（コース概要・はじめに）
第2回：Free time: Identifying activities happening now.（自由な話題：最近の話題について）
第3回：Free time: Talking about abilities.（自由な話題：能力について）
第4回：Clothes: Shopping vocabulary.（服装：買い物の語彙）
第5回：Clothes: Talking about personal qualities.（服装：個人の資質）
第6回：Food: Ordering a meal, planning a party.（食事：注文・パーティを開こう）
第7回：Food: Health & Food groups.（食事：健康と食事）
第8回：Health: Body parts & Problems.（健康：体と病気）
第9回：Health: Healthy living (Process writing).（健康：健康的な生活）
第10回：Making plans: Special days and holidays.（計画：特別な日・休日）
第11回：Making future plans.（将来の計画）
第12回：On the move: Talking about the past.（過去を語る）
第13回：On the move: Comparing past & present.（過去と現在を比較する）
第14回：Presentation 1（プレゼンテーション１）
第15回：Review（復習）
End of semester Examination（期末試験）

テキスト

World English Intro B. Third Edition. （Student book with printed workbook）National Geographic Learning/Cengage Learning

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

受講態度（30%）、グループプレゼンテーション（20%）、期末試験（50%）で評価する。

授業科目名： 英語Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大谷　ショーン 担当形態： 単独

科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

On completion of this course the students' will have a better understanding of the importance of English with regard to globalization and will be able to confidently use English for everyday communication.（グローバル化に関する英語の重要性をよりよく理解し、日常のコミュニケーションに自信を持って英語を使用できるようになることを目指します。）

授業の概要

The aim of this course is to give students the opportunity to work on all four skills of reading, writing, listening, and speaking. Topics studied will reflect a practical use of the English language with a main emphasis on communication.（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの英語の4つのスキルすべてに取り組みます。コミュニケーションに重点を置いた英語の実践的な使用に取り組みます。）

授業計画

第1回：Introductions.（はじめに）
第2回：Meeting people.（初対面）
第3回：People and occupations.（人と職業）
第4回：A typical day and free time.（日常と自由時間）
第5回：Hobbies and interests.（趣味と関心事）
第6回：Possessions and travel information.（個性と旅行）
第7回：Planning a vacation.（休日の計画）
第8回：Recipies and ordering meals.（レシピと食事の注文）
第9回：Diets and planning a garden.（ダイエットとガーデニング）
第10回：Sports: Actions.（スポーツ）
第11回：Favorites and comparisons.（好みと比較）
第12回：Past vacations and trips.（過去の休日や旅行）
第13回：Describing past activities and locations.（過去の活動や行き先を説明する）
第14回：Presentation 1.（プレゼンテーション１）
第15回：Review.（復習）
End of semester Examination（期末試験）

テキスト

World English 1A. Third Edition.　(Student book with printed workbook)
National Geographic Learning/Cengage Learning

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

受講態度（30%）、プレゼンテーション（20%）、期末試験（50%）で評価する。

授業科目名： 情報リテラシーⅢ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木谷　晋平、高木　亮、 渡邊　義雄 担当形態： オムニバス

科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報機器の操作

授業のテーマ及び到達目標
コンピュータを利用した情報の表現・収集・整理を通して情報処理能力を養うことを目標とする。

授業の概要
情報社会の中では情報を活用して表現する能力が必要とされている。今日，情報を処理する道具として，コンピュータがいろいろなかたちで広く利用されている。そこで，コンピュータを利用した情報の表現・収集・整理を通して情報処理能力を養う。

授業計画

第1回目：情報の運用（渡邊）
第2回目：情報セキュリティ（渡邊）
第3回目：情報モラル（渡邊）
第4回目：レポートの書き方１：レポートの構成（渡邊）
第5回目：レポートの書き方２：レポート作成の方法（渡邊）
第6回目：ICTを活用した授業デザイン１：「フォーム」などを活用した個別最適な学び（木谷）
第7回目：ICTを活用した授業デザイン２：「スプレッドシート」などを活用した協働的な学び（木谷）
第8回目：ICTを活用した授業デザイン３：「ドキュメント」などを活用した協働的な学び（木谷）
第9回目：ICTを活用した授業デザイン４：クイズアプリなどを活用した協働的な学び（木谷）
第10回目：ICTを活用した授業デザイン５：「グーグルMeet」などを活用したオンライン授業（木谷）
第11回目：Society5.0政策における教育・保育の課題（高木）
第12回目：GIGAスクール構想と学校園のEBPM（高木）
第13回目：教育工学の概要とカリキュラムマネジメントの課題（高木）
第14回目：教育・保育関連諸統計（高木）
第15回目：遠隔授業の概要・理論と独自教材作成演習（高木）

テキスト
e-Learningシステム webclass（https://webclass.mimasaka.ac.jp/）にて資料を配信または授業での配布資料で関連資料・データを配布する。

参考書・参考資料等
e-Learningシステム webclass（https://webclass.mimasaka.ac.jp/）にて資料を配信または授業での配布資料で関連資料・データを配布する。

学生に対する評価
課題提出（20%）、授業への参加・提出物の内容（80%）で評価する。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高木　亮 担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業のテーマ及び到達目標

受講者は、①教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係、②教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷、③教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育および学校との関わりを理解することができる。

授業の概要

『教職課程コア・カリキュラム』における「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関わる科目準拠の内容を基本的知識として学ぶ。その上で就学前教育・初等教育での活躍を意識し現代日本や都道府県単位での学校園・教職保育者の課題を学習し続ける意欲・態度について考える。授業方法は講義形式を基本とし、広範な教育学領域の基礎基本的知識の正確な習得を促す。自習支援等でのICT教材を積極的に準備し、その基礎基本的な活用能力向上も求める。

授業計画

第1回　教育学概論の３領域概要と授業の目標
第2回　憲法における社会権と教育の権利・義務
第3回　学習・学力向上過程と教育
第4回　生きる力をめざした保育・教育の過程(プロセス)と課程（カリキュラム）
第5回　生涯学習を展望した生きる力の３要素
第6回　「一条校」から考える学校園の段階と種類
第7回　海外の学校段階と種類
第8回　保育・教育上守るべき中立・制限とこれからの課題
第9回　古代世界史から考える学校と教育の歴史・思想
第10回　日本教育史から考える教育・保育課程
第11回　教育史における思想・教育内容と教材・教具・玩具
第12回　近世までの教育史における教育観・子供観・学力観
第13回　近代以降の教育史における教育観・子供観・学力観
第14回　戦後日本教育史
第15回　21世紀を見据えた日本の教育・保育の課題
定期試験

テキスト

参考書・参考資料等

『教員採用試験教職教養らくらくマスター』実務教育出版
『教員採用試験教職教養よく出る過去問』実務教育出版
文部科学省HP『学制百二十年史』
(https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318221.htm)

学生に対する評価

筆記試験（80％）、受講態度（20％）

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 甲田　敦三 担当形態：　単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の意義及び教員の役割･職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

教員にとって必要とされる資質能力・職務内容を積極的に身に付け、教職への意欲を高めることができる。

授業の概要

本授業では「教職」についての意義、並びに教師に課せられた使命・役割について理解を深めるために、教育法規・生徒指導と学級経営・最近の教育時事等について学ぶ。また、この授業では小学校長をゲストティーチャーとして招聘し、教育現場の理解を促す事例を紹介する。

授業計画

第 1 回目　教職の意義
第 2 回目　教職観・期待される教員像
第 3 回目　事例から学ぶ教師の役割と支援の在り方
第 4 回目　生徒指導と学級経営
第 5 回目　教員採用試験の現状。求められる教員像（文科省・各県）
第 6 回目　学校と教育委員会
第 7 回目　教員の職務内容
第 8 回目　教員の任用と服務内容①職務上の義務・身分上の義務
第 9 回目　教員の任用と服務内容②義務違反の事例より
第 10 回目　勤務条件・身分保障
第 11 回目　教員の資質向上と研修
第 12 回目　学校の組織と学校経営
第 13 回目　チームとしての学校の在り方
第 14 回目　新しい時代の教育改革
第15回目　総括
定期試験

テキスト

プリントで配布する。

参考書・参考資料等

教職論「第2版」教職問題研究会編　ミネルヴァ書房
教職論〔改訂版〕これから求められる教員の資質能力　石村卓也　著　昭和堂
小学校学級だよりから　のっぽさん　只友厚　著　東京図書出版

学生に対する評価

各回の振り返りレポート（20%）　　受講態度（30%）　　期末試験（50%）

授業科目名： 学校教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高木　亮 担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

現代の学校教育に関する①社会的、②制度的、③経営的事項、④学校と地域との連携に関する理解及び⑤学校安全への対応に関する基礎的知識を正確に身に付けた上で、子供を第一に地域社会と支え合う態度・人間性の萌芽とする。

授業の概要

①日本社会・教育政策と②教育制度、③教育・保育にとっての経営、④学校園にとっての学区・地域社会との協働、⑤学校園の危機管理の５点の基本的事項を内容とする。授業方法は講義形式を基本とし、広範な教育学領域の基礎基本的知識の正確な習得を促す。自習支援等でのICT 教材を積極的に準備し、その基礎基本的な活用能力向上も求める。

授業計画

第 1 回目　学校教育社会学をめぐる５大内容
第 2 回目　令和の日本社会と教育政策
第 3 回目　現代日本の教育政策の基本方針・理念
第 4 回目　教育法体系の全体像
第 5 回目　教育政策と教育行財政
第 6 回目　地方教育行政の枠組み
第 7 回目　保育教育における公共経営（マネジメント）の基本的枠組み
第 8 回目　保育教育における組織の動かし方の理論
第 9 回目　学校園における組織の諸理論
第 10 回目　学校園における改善と４つの経営資源、１つの制約
第 11 回目　日本社会の近未来像と保育教育の課題
第 12 回目　学・園区などの地域共同体の今後の課題
第 13 回目　学校園の防災・減災の基礎理解
第 14 回目　学校園をめぐる様々な危機と危機管理
第15回目　これからの学校園と日本社会
定期試験

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

『われらの子ども:米国における機会格差の拡大』ロバート・D・パットナム著,柴内安文訳（創元社）　3,867円

学生に対する評価

理解・習得テスト（20%）、ミニレポート（30%）、授業取り組み・復習チェック(50%)により総合的に評価する。なお、宿題調査等は基本的な内容を事後直接授業で解説もしくは資料配布の形で答え合わせとする。また、『教職課程コアカリキュラム』における教職課程必修科目であるため、厳しい評価基準で評価を行う。

授業科目名： 発達心理学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 津々　清美 担当形態：　単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業のテーマ及び到達目標

大人と子どもとでは、身体の大きさだけではなく、知覚、認知、言語、思考、記憶、社会性などに差異があり、そのことが発達の違いとしてあらわれている。本授業は、子どもへの理解を深める基礎として、これらの諸機能がどのような発達プロセスを辿っていくのかについて、胎児期から児童期までの発達過程を取り上げる。本授業では、保育・教育現場等で求められる子どもの心理的な発達に関する専門的知識を養うことを目標とする。

授業の概要

発達に関する理論や発達の諸機能を取り上げ、映像やスライド、エビデンスに基づく知見を通して胎児期から児童期までの発達過程を講義形式で紹介していく。

授業計画

第 1 回目　ガイダンス：発達とは、発達心理学を学ぶ意義
第 2 回目　発達の諸理論（1）：遺伝と環境、エピジェネティクス、行動遺伝学
第 3 回目　発達の諸理論（2）：発達の最近接領域、発達課題、ライフサイクル論
第 4 回目　発達の諸理論（3）：生態学的システム理論、学習行動理論
第 5 回目　身体・知覚・神経系の発達
第 6 回目　運動の発達：運動の法則性と運動
第 7 回目　認知発達の理論：発生的認識論
第 8 回目　認知の発達：実行機能、メタ認知
第 9 回目　言語・思考の発達：　言語獲得、会話、思考、推論
第 10 回目　記憶の発達：短期記憶、ワーキングメモリ、エピソード記憶、意味記憶など
第 11 回目　自他理解の発達：自己認知、他者認知、自己概念、心の理論
第 12 回目　社会性の発達：親子関係、仲間関係
第 13 回目　感情の発達：基本的感情、自尊感情と劣等感
第 14 回目　道徳性の発達：向社会性、善悪判断
第 15 回目　動機付けと知能観、学習評価
定期試験

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

山内光哉（編）　発達心理学　上　ナカニシヤ出版　藤村宜之（編）
いちばんはじめに読む心理学の本3　よくわかる発達心理学　ミネルヴァ書房

学生に対する評価

期末試験（70%）、授業態度・リアクション・シート（30%）により総合的に評価する。なお、リアクション・シートへの返答は、次回の授業で行う。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 妻藤　真彦 担当形態：　単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業のテーマ及び到達目標

教育・保育分野に関わる心理学の知見・理論・応用を説明できるようになること，また子どもの指導や学校・保育施設等の人間関係に応用できることを目指す。

授業の概要

学習観の変遷と現在も残る考え方の違いも含み，仮想事例の考察も通して，教育心理学の主要な内容を学ぶ。実習などで，応用について考察してみる。

授業計画

第 1 回目　学習に関する心理学理論と変遷①ソーンダイク・行動主義
第 2 回目　学習に関する心理学理論と変遷②新行動主義・ゲシュタルト学派
第 3 回目　学習に関する心理学理論と変遷③認知心理学・認知科学・認知神経科学
第 4 回目　学習理論の応用
第 5 回目　学習指導①レディネス，転移・知識の領域固有性など
第 6 回目　学習指導②外発的動機付けと内発的動機付け・コンピ―テンスへの動機づけなど
第 7 回目　学習指導③達成動機・心的飽和など
第 8 回目　学習指導④発見学習と有意味受容学習・スキーマ理論
第 9 回目　学習指導⑤動機付けパターン・成績志向と熟達志向・熟達志向へ導く褒め方、動機付け・覚醒水準と思考効率など
第 10 回目　学習指導⑥適正処遇交互作用
第 11 回目　学習指導⑦思考スタイル
第 12 回目　個人差と評価①完全修得学習と教育評価
第 13 回目　個人差と評価②知能理論と関連論争，社会的影響など
第 14 回目　個人差と評価③知能検査の歴史と論争およびその問題点
第15回目　関連事項
定期試験

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

教育心理学エッセンシャルズ　西村・井森著，ナカニシヤ出版

学生に対する評価

定期試験（90%）と受講態度（10%）。

授業科目名： 発達心理学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安田　純 担当形態：　単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業のテーマ及び到達目標

本講義においては乳幼児、児童の心身の発達についての理解を深め、保育者、教育者としての資質能力を高めることを目的としている。

発達障害を有する幼児・児童の特性を理解するとともに、彼らに対して効果的な支援がいかなるものであるか、検討することができるようになることを目標とする。

授業の概要

自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、学習障害、知的障害などの発達障害の行動的、認知的特徴を学習する。発達障害の心理的評価法を学び、それに基づく様々な療育プログラムの概要について捉える。

授業計画

第 1 回目　発達障害の種類と特徴
第 2 回目　自閉スペクトラム症
第 3 回目　注意欠如多動症
第 4 回目　学習障害
第 5 回目　知的障害
第 6 回目　特別支援教育の概要
第 7 回目　発達障害のアセスメント
第 8 回目　発達検査・知能検査
第 9 回目　自閉スペクトラム症のアセスメント
第 10 回目　注意欠如多動症のアセスメント
第 11 回目　応用行動分析による支援
第 12 回目　自閉スペクトラム症児の支援
第 13 回目　注意欠如多動症児の支援
第 14 回目　学習障害児の支援
第15回目　発達障害児に対する支援の現状
定期試験

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

諏訪 利明・安倍 陽子・ 内山 登紀夫「こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援小学校 」ミネルヴァ書房

学生に対する評価

定期試験（50%）、レポート（30%）、受講態度（20%）

授業科目名： 特別支援教育の理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 増田 美佳子、安田　純 担当形態： オムニバス

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

授業のテーマ及び到達目標

本授業においては、特別な支援あるいは特別の教育ニーズを必要とする児童、生徒の学習上および生活上の困難を理解するとともに、教育者として、個別の教育ニーズに対し、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応し得る効果的な知識や手段を身につけることを目的とする。

授業の概要

自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、学習障害、知的障害などの発達障害の行動的、認知的特徴を学習する。発達障害の心理的評価法を学び、それに基づく様々な療育プログラムの概要について捉える。

授業計画

第１回目 特別支援教育とは（増田美佳子）
第２回目 発達障害児の特性（安田純）
第３回目 発達障害以外の様々な障害（安田純）
第４回目 発達障害児に対する支援（増田美佳子）
第５回目 学校における指導（増田美佳子）
第６回目 指導計画・支援計画の作成（増田美佳子）
第７回目 家庭、関係機関との連携（増田美佳子）（特別新教育コーディネーターと校内委員会）
第８回目特別な支援あるいは特別な教育的ニーズのある子どもへの支援（安田純）
定期試験

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

・中山清司・内山 登紀夫「こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援 中学校以降」ミネルヴァ書房
・中山清司・内山 登紀夫「こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援 小学校」　ミネルヴァ書房
・中山清司・内山 登紀夫「こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園」ミネルヴァ書房

学生に対する評価

定期試験（50%）、レポート（30%）、受講態度（20%）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高木　亮
			担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業のテーマ及び到達目標

受講者は、①学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義、②教育課程編成の基本原理および学校の教育実践に即した教育課程編成の方法、③教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解することができる。

授業の概要

受講者は、本講義をとおし、学習指導要領が教育課程の国家的基準として存在する意味やその変遷、各学校がそれにより個別に教育課程を編成する意義や方法、そして近年注目されるカリキュラム・マネジメントやカリキュラム評価といった教育課程をめぐる新たな動向について学ぶ。

授業計画

１．教育課程論で考える３領域と授業の到達目標
２．一条校と教育課程
３．学校は何をするところで、どのような教育計画を持つのか
４．学力（学校園に通う時期にしか身につかない力）と教育課程
５．『学習指導要領』の基本構造
６．『幼稚園教育要領』と『学習指導要領』の一生
７．『幼稚園教育要領』と『学習指導要領』の仕組み
８．『幼稚園教育要領』と『学習指導要領』の歴史
９．教育課程における第三の教育改革と基礎学力調査の影響
10．『学習指導要領』改訂をめぐる諸理論
11．健康・生活指導と教育課程
12．小学校・中学校や義務教育学校の教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント
13．教育課程編成をめぐる法制度
14．カリキュラム・マネジメントと教育行政・学校経営
15．教育課程の枠組み・構造
定期試験

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』および『解説』各編、『中学校学習指導要領（平成29年告示）』のほか、講義に際し、プリントを配付する。

参考書・参考資料等

・尾崎博美、井藤元編『ワークで学ぶ教育課程論』（ナカニシヤ出版、2018年）
・吉田武雄監修、根津朋実編著『教育課程（MINERVAはじめて学ぶ教職）』（ミネルヴァ書房、2019年）
・原清治、春日井敏之、篠原正典、森田真樹監修、細尾萌子、田中耕治編著『教育課程・教育評価（新しい教職教育講座）』（ミネルヴァ書房、2018年）
・山田恵吾、藤田祐介、貝塚茂樹、関根明伸『教育課程を学ぶ』（ミネルヴァ書房、2019年）

学生に対する評価

試験成績（90%）、受講態度（10%）により評価する。試験答案は、採点後返却する。

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂元　剛敬 担当形態： 単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		

授業のテーマ及び到達目標

「特別の教科　道徳」の目標は、「道徳的価値の理由」「自己を見つめる」「物事を多面的・多角的に考える」等の関わりから指導することで「自己の生き方について考えを深める」ことである。そのために、道徳科の授業の教材研究や学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な指導力を身に付ける。

授業の概要

指導者は、「道徳教育の充実が求められる背景」や「特別の教科　道徳」を設置した理由等を実務経験を活かして概説する。受講者は、学校教育における道徳教育の目標や内容を理解し、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育、その要となる道徳科における指導計画・指導方法や評価について学習する。

授業計画

第 1 回目 開講にあたって
第 2 回目 道徳教育の充実が求められる背景について
第 3 回目 道徳教育の目標について
第 4 回目 道徳科の目標について
第 5 回目 道徳科、内容項目について
第 6 回目 道徳教育及び道徳科における指導計画
第 7 回目 道徳科の指導①現役教師の模範授業を視聴し道徳科の目標と照らして評価し参考とする。
第 8 回目 道徳科の指導②道徳科の特質を生かした学習指導の展開について考える。
第 9 回目 道徳科の指導③学習指導の多様な展開…指導案作成（小学校）
第 10 回目 道徳科の指導④学習指導の多様な展開…指導案作成（中学校）
第 11 回目 道徳科の指導⑤学習指導の多様な展開…模擬授業の実施（小学校）
第 12 回目 道徳科の指導⑥学習指導の多様な展開…模擬授業の実施（中学校）
第 13 回目 道徳科の指導⑦模擬授業の振返り、指導における配慮事項について
第 14 回目 道徳科教材に求められる内容の観点について
第 15回目 道徳科における評価について
定期試験

テキスト

『小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編』『中学校学習指導要領（平成29年告示）特別の教科 道徳編』『小学道徳　生きる力　4　』日本文教出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

期末試験（５０％）　指導案作成・模擬授業（２０％）　まとめ・振り返り（３０％）

授業科目名： 総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井上　吉和 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		

授業のテーマ及び到達目標

学習指導要領解説の目標・内容、内容の取り扱いを理解し、創意工夫を生かした教育課程が実施できるような基礎的な力を付ける事を目指す。

授業の概要

学習指導要領解説により、総合的な学習の時間が目指す資質・能力について考えを深める。この授業はゲストティーチャーを招聘したり、実地研修をしたりして、探求的な見方や考え方、学校と地域との連携、伝統文化などについての理解を深める。

授業計画

第1回目 総説　総合的な学習の時間の目標及び内容
第2回目 指導計画の作成と内容の取り扱い　指導計画の作成
第3回目 総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成
第4回目 総合的な学習の時間の学習指導、評価、体制づくり
第5回目 総合的な学習の時間の地域学習について
第6回目 「津山洋学資料館」の実地研修
第7回目 総合的な学習の時間の学習指導案づくりとグループ討議
第8回目 グループ討議内容の発表・まとめ
定期試験

課題及び授業時間外の学習内容

津山洋学資料館の予備学習
ゲストティーチャーによる講話
津山洋学資料館の実地研修
学習指導案の資料収集

テキスト

『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』文部科学省
『中学校学習指導要領（平成29年告示）総合的な学習の時間編』文部科学省

参考書・参考資料等

『資料が語る津山の洋学』津山洋学資料館

学生に対する評価

講義への学習態度（20%）、レポート（30%）、定期試験（50%）等をもとに総合的に評価をする。

授業科目名： 特別活動指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：井上　吉和 担当形態： 単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		

授業のテーマ及び到達目標

特別活動の目標・特質・教育的意義や各活動内容を学習する中で、特別活動が児童・生徒の成長に欠かせない教育活動であることを目指す。

授業の概要

集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養うという小学校及び中学校の目標等について、学習を深める。

授業計画

第１回目 総説　これからの特別活動　特別活動とは何か　特別活動に期待されるもの
第２回目 特別活動の目標
第３回目 各活動：学級活動と児童会活動
第４回目 各活動：クラブ活動と学校行事
第５回目 指導計画の作成に当たっての配慮事項
第６回目 内容の取り扱い　儀式の取り扱い　指導担当教師
第７回目 先進校などの実践事例に学ぶ
第8回目 実践事例に学ぶ
定期試験

テキスト

『小学校学習指導要領解説　特別活動編』　文部科学省
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』　文部科学省

参考書・参考資料等

『教師教育講座　第8巻　特別活動論』　山田浩之 編　協同出版

学生に対する評価

講義への受講態度（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）等をもとに総合的に評価をする。

授業科目名： 教育方法技術論・情報通信技術教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 増田　美佳子 担当形態： 単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術/情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

授業のテーマ及び到達目標

教育方法の歴史、教授理論、授業方法、授業の準備－計画－実施－評価の方法、教授メディア、情報通信技術教育の背景、理論と方法、特別支援教育における情報通信技術活用の方法を理解し、説明できる。情報通信技術を活用した教材を制作できる。

授業の概要

教育方法の歴史、教授理論、授業方法、授業の準備－計画－実施－評価の方法、教授メディア、情報通信技術教育の背景、理論、方法について講義を行い、情報通信技術を活用した教材の制作を行う。

授業計画

第 1 回目　教育の方法・技術とは何か
第 2 回目　教育方法の歴史的発展:西洋
第 3 回目　教育方法の歴史的発展:日本
第 4 回目　教授理論の発展(1)ドイツ教授学
第 5 回目　教授理論の発展(2)米国の授業理論
第 6 回目　授業方法
第 7 回目　授業の実践（準備ー計画ー実施ー評価）
第 8 回目　情報通信技術教育前史:教授メディア、教育工学の発展
第 9 回目　今日の情報通信技術教育の背景
第 10 回目 情報通信技術教育の理論と方法
第 11 回目 情報通信技術活用の方法(1)授業における活用(特別支援教育含む)
第 12 回目 情報通信技術活用の方法(2)遠隔・オンライン教育での活用と校務の推進
第 13 回目 情報活用能力(情報モラル)の育成のための指導法
第 14 回目 情報通信技術を活用した教材の制作
第 15 回目 情報通信技術を活用した教材の発表
定期試験

テキスト

教科書は使用しない。レジメを配布する。

参考書・参考資料等

日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社　平成26年
ヴァン・マーネン著、岡崎美智子・大池美也子・中野和光訳『教育のトーン』ゆみる出版　平成15年
中野和光編著『教科の充実で学力を育てる』ぎょうせい　平成16年
高橋純他『初等中等教育におけるICT教育』ミネルヴァ書房、平成30年

学生に対する評価

試験（100%）
教材制作・発表なしには期末試験の受験を認めない。

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高木　亮 担当形態： 単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法/進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業のテーマ及び到達目標

現代の学校教育に関する①生活指導・生徒指導とキャリア教育・進路指導に関する基本的概念、②生徒指導と進路指導に関する集団指導のあり方、③生徒指導と進路指導に関する個々人の適応支援に関する基礎的知識を正確に身に付けた上で、子供を教育する上での態度・人間性の萌芽とする。

授業の概要

①生活指導・生徒指導とキャリア教育・進路指導の各概念と関係性と②集団指導（ガイダンス）としての生徒指導・進路指導の在り方、③個別指導（適応支援・カウンセリング）としての３点の基本的事項を内容とする。授業方法は講義形式を基本とし、広範な教育学領域の基礎基本的知識の正確な習得を促す。自習支援等での ICT 教材を積極的に準備し、その基礎基本的な活用能力向上も求める。

授業計画

第１回目　生徒指導・進路指導をめぐる３大内容の説明と授業到達目標の解説
第２回目　生涯発達としてのキャリア形成とメンタルヘルス
第３回目　個別指導と適応支援の基礎理論
第４回目　義務教育までの生活指導・生徒指導とキャリア教育
第５回目　高等学校以降の生活指導・生徒指導とキャリア教育・進路指導
第６回目　教育課程を踏まえた上での積極的生徒指導
第７回目　各教科・領域における積極的生徒指導
第８回目　生徒指導・キャリア教育における集団的指導と個別指導の使い分け
第９回目　学校内連携・経営改善を通した生徒・キャリア教育
第 10 回目　学内共同と学外機関協働を通した生徒・キャリア教育
第 11 回目　積極的生徒指導における特別支援教育の課題
第 12 回目　キャリア教育における特別支援教育の課題
第 13 回目　新しい特別支援教育の課題と生徒指導・キャリア教育の課題
第 14 回目　所得・貧困問題と生徒指導・キャリア教育
第15回目　現行『学習指導要領』までの生徒指導・キャリア教育の課題
定期試験

テキスト

・『生徒指導提要（令和4年12月）』（文部科学省）

参考書・参考資料等

・『生徒指導の役割連携の推進に向けて』国立教育政策研究所
・『よくわかる生徒指導・キャリア教育』小泉令三著（ミネルヴァ書房）　2400円

学生に対する評価

理解・習得テスト（20%）、ミニレポート（30%）、授業取り組み・復習チェック(50%)により総合的に評価する。なお、宿題調査等は基本的な内容を事後直接授業で解説もしくは資料配布の形で答え合わせとする。また、『教職課程コアカリキュラム』における教職課程必修科目であるため、厳しい評価基準で評価を行う。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡邉　淳一 担当形態： 単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

チーム学校及び生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援について理解できる。チーム学校における教育相談活動について理解できる。Active Listening について、基礎的な知識・技能及び基本的な姿勢を身につけている。

授業の概要

この授業では、担当教員の実務経験を踏まえ、適切に教育相談を実践するための基礎的知識及び技能を講義・演習を通して学ぶ。

授業計画

第1回目 ガイダンス　開始時の自己評価
第2回目 幼児・児童と教師とのかかわり合い
第3回目 リフレクションとプロセスレコード
第4回目 プロセスレコード
第5回目 リフレクション演習
第6回目 幼児・児童理解の理論と方法
第7回目 ガイダンスとカウンセリング、カウンセリングマインド
第8回目 Active Listening
第9回目 保護者理解・保護者との教育相談
第10回目 保護者対応　モンスターペアレント論を超えて
第11回目 学校における教育相談体制
第12回目 チーム支援
第13回目 家庭・関係機関等との連携・協働
第14回目 教育相談の実際
第15回目 全体のまとめ・総復習
定期試験

テキスト

・生徒指導提要（令和4年12月　文部科学省）
・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編
・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編
・幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）
・その他、適宜プリントを配付する。

参考書・参考資料等

・小野田正利（2008）『親はモンスターじゃない！イチャモンはつながるチャンスだ』学事出版
・角田　豊 編著（2019）『子どもとの関係性を読み解く　教師のためのプロセスレコード』金子書房
・F.コルトハーヘン 編著　武田信子 監訳（2010）『教師教育学　理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』学文社

学生に対する評価

課題や演習への取組10%、期末試験90%。期末試験は持込不可。

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（幼・小・中）	単位数：２単位	担当教員名：渡邉　淳一

科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次通年	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	○

受講者数　　４０人（２０人×２グループに分けて実施）

教員の連携・協力体制

大学近隣の市町教育委員会及び校長会長、各学校長と本学教員が連携し、小学校で児童を指導する年間計画を立案する。それに基づき、受講者は小学校における児童の学習指導の計画を立案し、教材を開発し、学習指導案を作成する。これを、退職校長及び本学教員が協働して指導する。連携小学校長は受講生を対象に教育講話を行い、受講生の教師としての指導力の向上を図る。

授業のテーマ及び到達目標

受講者は、今後教職に就くにあたり、また就職後も継続的な自己研鑽を可能とする使命感や責任感に裏打ちされた確かな指導力と向上心とを獲得することができる。

授業の概要

下記の授業計画に加え、履修カルテを活用するとともに、学内外講師による講義やロールプレイング、またグループによる討議や事例研究および現地調査、そして指導案の作成・検討、ならびに模擬授業などを実施する。また、適宜補完的な個別指導を行う場合もある。

授業計画

第1回目　ガイダンス　開始時の自己評価
第2回目　教職に求められる使命感や責任感、教育的愛情
第3回目　教職に求められる児童理解、教科指導能力
第4回目　学校現場の見学・調査　A校
第5回目　A校を取巻く環境の見学・調査
第6回目　学年別学習指導案の作成および検討　A校第3学年
第7回目　児童を対象とした指導実践と省察　A校第3学年
第8回目　学年別学習指導案の作成および検討　A校第4学年
第9回目　児童を対象とした指導実践と省察　A校第4学年
第10回目　学年別学習指導案の作成および検討　A校第5学年
第11回目　児童を対象とした指導実践と省察　A校第5学年
第12回目　学年別学習指導案の作成および検討　A校第6学年
第13回目　児童を対象とした指導実践と省察　A校第6学年
第14回目　A校校長講話
第15回目　中間時の総括的省察
第16回目　ガイダンス
第17回目　教職に求められる社会性、対人関係能力
第18回目　教職に求められる学級経営の視点
第19回目　学校現場の見学・調査　B校
第20回目　B校を取巻く環境の見学・調査
第21回目　学年別学習指導案の作成および検討　B校第3学年
第22回目　児童を対象とした指導実践と省察　B校第3学年
第23回目　学年別学習指導案の作成および検討　B校第4学年
第24回目　児童を対象とした指導実践と省察　B校第4学年
第25回目　学年別学習指導案の作成および検討　B校第5学年
第26回目　児童を対象とした指導実践と省察　B校第5学年
第27回目　学年別学習指導案の作成および検討　B校第6学年

第28回目 児童を対象とした指導実践と省察　B校第6学年 第29回目 B校校長講話 第30回目 終了時の総括的省察
テキスト ・美作大学生活科学部児童学科編『小学校教育実習の手引き』 ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　各教科 ほか、適宜指示する。
参考書・参考資料等 ・文部科学省（令和4年）『生徒指導提要』
学生に対する評価 ①履修カルテを中心とした自己評価への姿勢と取組（10%） ②模擬授業を中心とした授業実践への姿勢と取組（40%） ③総体的な個人およびグループ活動への姿勢と取組（30%） ④ICTやレポートなど諸課題への取組（20%）をもって総合的に評価する。

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。